

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0272400540		
法人名	有限会社恵成		
事業所名	グループホーム菟賣荘		
所在地	青森県北津軽郡中泊町小泊浜野61-1		
自己評価作成日	平成22年11月5日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.aokaigoyouho.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0272400540&amp;SCD=320">http://www.aokaigoyouho.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0272400540&amp;SCD=320</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社団法人青森県老人福祉協会		
所在地	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20番30号 県民福祉プラザ3階		
訪問調査日	平成22年12月10日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホーム名「菟賣荘」の由来である「穏やかにお客様をもてなし、安らぎを与える」を基本理念に、住み慣れた地域の中で、穏やかに暮らし、安らぎを得て頂けるように支援します。
---

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

地域性を上手く活用し、町内会や婦人会との関わりも良好で、町会の行事、ボランティア、雑巾縫いの寄贈等積極的に活動されている。 基本理念の「穏やかにお客様をもてなし、安らぎをあたえる」を常に職員間で話し合い、利用者の対応は「急がない、全てゆっくり」と利用者のペースに合わせたケアを実践されている。 地域に入院設備の整った病院がない為、かかりつけ医、家族と密な話し合いのもと、重度化になっても出来る限りの対応に取り組んでいる。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホーム名称「蕤賓荘」の由来を独自の理念として捉え、地域の中でその人らしい生活を支援できるように、ミーティング等で目標を具体化し、実践に繋げている。	ホーム名称の由来である「穏やかにお客様をもてなし、安らぎをあたえる。」を基本理念とし、常に会議等で確認し共有している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	慰問がある時は、観覧版等で地域の方に案内を出し、参加を求めている。又、町の夏祭りには、踊り手として、防災時の炊き出しの演習には、ボランティアとして職員を派遣している。	近隣との関わりや町内会、婦人部との関わりが深く、訪問などがある時は住民へも案内を出し、積極的に交流を図っている。また、地域の行事へも参加するなど日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の方の理解も含め、年1回、地域の方に案内を出し、ホーム内研修会を開催している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	検討事項、懸案事項に付き経過報告を行い、改善に向けた取り組みに繋げている。又、地域の方々への理解と支援を得る為のモニター役として意見を頂いている。	2ヶ月に1回開催し、ホームでの取り組みや外部評価の報告を行っている。会議後は、出された意見を参考にしサービスの向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者からは、随時、密な情報を頂いている。又、事業所での課題解決の際に意見を聞くなど協力関係は築かれている。	市町村との繋がりは良く、運営上わからない事があれば電話やメール等でいつでも相談し連携を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の話し合いは常に行われているが、転倒の危険性、外へ出て帰れないなど、リスクのある方が入居している為、完全な取り組みは実践できずにいる。	身体拘束について会議で話し合い、職員は身体拘束について理解している。どうしても行わなければならない場合は、家族に説明・同意を得るようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法に関する講習、研修会で学び、全職員に研修報告をしている。又、管理者は利用者に対する尊厳保持を遵守するように話し、虐待防止に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を必要とするケースはないが、専門員によるホーム研修を行い、管理者、全職員は知識を得ていて、必要時に活用できるように図っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には重要事項説明書等にて、退所を含めた対応可能な点に付き説明を行い、納得を得た上で手続きをしている。契約解除時は、利用者の状態変化による場合であっても、家族と本人の意思を尊重し対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情箱を設置したり、ホームアンケートをご家族に配布し、意見を頂いている。それらの意見、要望は会議で話し合い、運営に反映させている。	職員は家族の面会時など、随時意見を聞くように努めている。また、意見箱を設置したりホーム独自のアンケートを家族へ配布し意見を頂き、利用者や家族の思いや意向の把握に努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月行われる職員会議は、全職員が出席する体制づくりをし、職員からの意見、要望、提案は全員で検討し、出来る所は反映させている。	管理者は毎月行われる職員会議や日頃のコミュニケーションを大切にしており、会議などにおいても意見を出しやすい関係を構築している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は評価表を用い、全職員の状況を把握している。夏季、冬季休日の増加、70歳定年制の導入等で、やりがいを持てるように職場環境を整備している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は資格取得時に、職員配置の変更等で対応したり、研修計画表を作成し、全職員が研修できるよう、積極的に育成を進めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域グループホーム間で定期的に交流会を持ち意見交換をしている。又、地域の主治医を中心とした勉強会で他職種の方と連携を持ち、相互間の活動を強化している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談でご本人が求めている事をサービスに繋げながら、ホーム生活に馴染んで頂けるよう、担当職員を中心にゆっくりと話を聞き、不安を軽減できるよう図っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面談でご家族が求めている事をサービスに繋げ、電話連絡、ホーム便り等で近況を報告し、不安を軽減できるよう図っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族とご本人が求めている事をミーティング等で話し合い、ホームで対応が出来ない場合は、他のサービス事業所に繋げるなどの対応をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居している方は、人生の先輩であると言う考えを職員は共有していて、支援する側、される側と言う意識はなく、本人から学んだり、癒されたりして、共に支え合う関係を築いている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族には、利用者の様子を密に伝えるように努めている。受診時は同行して頂いたり、毎月行なわれる「雑巾縫い」の日にはご家族と入居者の方と一緒に針仕事をするなど、共に支援する関係づくりをしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入所前利用のディサービス事業所との交流で知人との関係を継続したり、自宅、お墓参り、御講、慰霊祭と入所前の関係が継続できるように、出来る限りの支援に努めている。	知人との関係を継続する以外にも、希望があれば墓参りや慰霊祭へ行ったりと、その都度、利用者や家族の意向に沿って支援されている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	各自の時間を尊重しながらも、お茶や食事の時間は全員で集うようにしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	終了時の面談、地域での集いで出合った時などに、折に触れ相談や支援に応じる姿勢を示している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の言葉や表情などからご本人の意向を把握するよう努めている。意思疎通が困難な方には、ご家族から情報を得、ミーティング等でご本人の視点に立ち検討するよう努めている。	利用者との会話・行動や意思疎通が困難な利用者には、それまでの生活歴や家族からの情報収集を基に意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用時に自宅訪問で、ご本人、ご家族、関係者から聴き取るようにしている。利用後は聴き取った生活歴等を、ご本人とのコミュニケーションを取る為の手法として全職員に報告し把握できるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の1日の暮らし方や生活リズムは、排泄表、バイタル表など活用し、ご本人の生きる力を重視した全体像の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族の思い、意見を、反映しながら、職員間で問題点を見出し現状に即した介護計画作成するように努めている。	モニタリングは毎月行い、職員の気付きなども踏まえながらカンファレンスを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別ファイルは全職員がいつでも観覧できるようにしている。勤務開始前の記録確認、職員間の連絡帳の確認は徹底するよう押印をして、情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況に応じ、面会時の送迎、ご家族の宿泊などの支援は柔軟に行なうように図っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の美容師さんがボランティアで散髪をしてくれたり、民政委員が行政相談毎を説明してくださる。又、年2回の火災訓練では消防署員より指導を頂き、安全で安心して過ごせるように各機関と連携している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人、ご家族が希望するかかりつけ医となっていて、複数の医療機関を受診し、利用者の変化、健康面での心配事がある場合は、その都度相談できる関係を得ている。	協力医療機関以外にも、利用者・家族の希望する医療機関での受診が出来るように支援している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	かかりつけ医のいる病院の看護職員からは、受診時アドバイスを頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、ご本人への支援方法に関する情報を医療機関に提供する。入院中は適宜に経過観察の為、見舞い、医師より回復状況等の情報を得ている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人、ご家族の意向を踏まえ、ホームで対応できる最大の支援を検討し方針を定める。その方針を説明しホームで対応出来る場合はご家族、医療関係者と連携を図りながら取り組んでいくように努める。ホームで対応出来ない場合は他関係機関に繋げるなどの対応をする。	終末期については対応していないが、重度化した際の受入れについては、ホームで対応できる範囲を家族へ説明している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急法、蘇生法の講習を全職員は受講し、急変時の応急手当、連絡網、対応方法について随時会議で話し合い、慌てない対応ができ、実践している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回利用者と共に避難訓練を行っている。その際は、運営推進委員の方と近隣の方数名に災害協力委員として訓練に参加して頂いている。	年2回の避難訓練には近隣の方も参加して行われている。また、災害時に備え協力を要請している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライドを傷つけず、プライバシーを尊重する言葉がけを会議の折に職員に話し、職員の意識は向上してきているが、地域性もあり、馴染みによる雑な言葉がけも見受けられ努力が必要である。	一人ひとりの人格の尊厳やプライバシーについて理解しており、地域の言葉を使う中でも、声掛けの工夫をされ、利用者を尊重した姿勢が伺える。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食事、外出などは個々の希望を聞き入れたり、多数の選択肢を提案して、自分で決める場面づくりを働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事時間などの一日の流れはあるが、その日、その時の本人の気持ちを尊重し、無理強いせず柔軟に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	汚れが目立つ時は声をかけ着替えを進めるが、自由に選べるように支援している。理・美容院もご本人の希望に応じ連絡、送迎をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は決まっているが、ご本人が食べたいと希望したら、献立に加えるなど柔軟に対応している。季節の山菜の皮むきなどをして頂き、昼食は職員と入居者が一緒に会話をしながら食べ楽しんでいる。	献立は決まっているが近隣から頂いた食材を取り入れたり柔軟に対応している。また、職員と利用者が一緒に会話をしながら食事をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量は職員全員が意識して関わっている。職員は食生活改善推進委員会のヘルスマートとなっていて、保健師より定期的に献立を見て頂き、食事バランスについてアドバイスを頂いている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨きの声が行い、ご本人の力に応じ職員が見守ったり、介助を行っている。就寝前には義歯の洗浄をおこなっている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表で時間や習慣を把握し、紙パンツから、布パンツ着用に推移できるように支援しながら、できるだけ、トイレでの排泄を促している。	トイレ誘導を行う事で排泄パターンを把握し、利用者の能力に応じて支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品は定時におやつとして提供し、食事の味付けは科学調味料を使用しない。繊維質の多い献立を取り入れながら、自然排便が出きるように取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	1日に入浴する人数を少なくし、入浴日を増やす事でゆっくり入浴できている。立位が出来ない方にも浴槽に浸かって頂く為に浴槽リフトを設置。夏場は入浴日以外に毎日シャワー浴をしている。	基本的には週4日の入浴日であるが、利用者から希望があればいつでも対応できる状態である。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	なるべく日中の活動を促すよう努力はしているが、休憩時間が多く、夜間覚醒している利用者には、添い寝をしたり、温かい飲み物を提供しながらおしゃべりをする等の配慮をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全職員が薬の内容を把握できるよう、処方箋を見て薬の仕分けをしている。処方、用量が変更時は通常より詳細な記録を取るようにし、症状変化を見逃さないように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	夏祭りはご自分の浴衣を着て参加、雛祭りには訪問着、留袖などで華やかに着飾り気分転換を図る。日常はサツマイモの植え付けなど入居者の知識や経験を発揮する場面を作り張り合いが持てるような支援を試みている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の希望に添って、買い物、友人宅への送迎、自宅訪問など出来る範囲で出かけられるよう支援しているが、希望頻度が激しくある入居者には、希望に添えない時もある。外出機会の少ない方には、業務に「散歩」を取り入れ、近隣を散歩して支援している。	買い物や散策、自宅へ行く等、個々に支援している。また、遠方でも希望があれば、出来るだけ対応している。	



自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自分でお金を管理できる方は受診時の支払い、買い物の支払いをして頂く。管理できない方はホームで預かり、買い物に出かけた際は時にレジに並んで支払いをして頂く事もある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を購入し、使用方法を支援した事も有る。字が書ける人には手紙を書くように支援し、電話を掛ける事が出来ない方には、本人の状況を見て家族に電話をつなげ、声を聞いてもらう等の支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間は畳み敷きだが椅子を配置していて、座ったり、寝転がったりと自由なスタイルで過ごせるようになっている。又、台所が近いので調理による匂い、音などで五感や季節感を感じて頂けると思っている。	共用空間は明るく、ソファや椅子、畳が用意され、それぞれが思い思いの場所でくつろいで過ごせるように配慮されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間であるホールには自然と人が集まり、誰いともなく各自で思い思いに自分の居場所を決め過ごしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた生活スタイルにまかせ、使い慣れた家具を持ち込んでいる。仏壇、神棚を持ち込まれた方には、毎朝ご飯を供えたり、神仏日にはお供え物をあげる等の支援をして、ご本人の居心地のよさに配慮している。	利用者は自宅で使用していた家具や仏壇、神棚などを自由に持って来て頂き、それぞれに居心地の良い居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室扉、食堂テーブルは同形状の為混乱が生じた場合は「どうしたらわかるのか」を追求し、干支を目印にしたり、字が読める方には名前を書くなどしてご本人の不安材料を取り除くよう試みている。		